

たのしい川べ本のリスト ~10代のあなたに~



「ワンダー」 ☆

R. J. パラシオ//作 中井はるの//訳 ほるぷ出版 933パ

顔に重度の障害を持って生まれた少年オーガストは、10歳になって初めて学校に通い始めました。特別な顔のことで周りの子とうまくいかないこともありましたが、家族やそばにいてくれた親友・先生たちと信頼関係を築いていきます。自分らしく生きる道を探るオーガストは、ありのままの姿を当たり前存在として周りから受け入れられていきます。

続きのお話、『もうひとつのWONDER』もおすすめです。

「風味〔さんじゅうまる〕」 ☆☆

まはら 三桃//著 講談社 Y913マ

「菓匠・一斗館」は、大正十年創業の老舗和菓子屋。

一斗館は、菓子店が新製品を競い合うSS-1グランプリに参加することになりました。一斗館の娘・風味もお菓子作りを手伝うことになりましたが、そこへ和菓子職人になるため修行中のチャラ男の兄も加わって…。さあ、どんなお菓子ができあがるのでしょうか？

「てるてるあした」 ☆☆☆

加納 朋子//著 幻冬舎 Fカノ

照代は親の夜逃げのために高校進学をあきらめ、遠縁をたよりある街へやってきました。送り主不明のメールが届いたり、女の子の幽霊と出会ったりする不思議な街“佐々良”で、照代は多くの人に出会い、学び、成長していきます。

同じく佐々良を舞台にした「姉妹編」『ささらさや』もおすすめです。

「凍てつく海のおこうに」 ☆☆☆

ルータ・セペティス//作 野沢 佳織//訳 あかね書房 Y933セ

1945年、第二次世界大戦末期。ドイツ領下の東プロイセンにはソ連軍による侵攻が始まりました。ナチス政権は住人をバルト海を經由して避難させる「ハンニバル作戦」を敢行しました。戦火を逃れようと海を目指しひたすら歩み続ける人々。賢明な命のバトンが交差します。シリーズ『灰色の地平線のかたに』を読むと、より一層この作品の背景を捉えることができます。

「西の魔女が死んだ」 ☆☆

梨木 香歩//著 小学館 Y913ナ

中学生になったまいは学校に行けなくなり、しばらくの間、田舎に住む外国人のおばあちゃんの家で暮らすことになりました。「西の魔女」と呼ばれているそのおばあちゃんは「何事も自分で決める」という魔女の手ほどきをまいに伝授します。まいはおばあちゃんとの田舎暮らしで次第にたくましさを身につけ、元気を取り戻していきます。西洋の香り漂う、癒しの物語です。

「ふたり」 ☆

福田 隆浩//作 講談社 913フ

転校生の佳純へのいじめをみつけてしまった准一は、気にしながらもクラスメイトに強く言えません。しかし、ある日おたがいが読書好きで同じ作家のファンだと知ります。その作家、月森和が別の名前で本を書いているという話を聞き、月森の本にヒントが隠されていると知ったふたりは協力して月森和の正体をさぐることにします。